

海域の概要

本湾は、北海道東部に存在する湾で、南部を太平洋に開いています。湾奥には厚岸港が存在し、その奥で厚岸湖と接続しています。湾内ではカキの養殖が盛んです。



Specification

諸元

湾口幅：9.15 km

面積：10264 km²

湾内最大水深：2.4 m

湾口最大水深：2.4 m

閉鎖度指標：1.11

備考：なし

Location

範囲または位置

北海道厚岸郡厚岸町末広崎と釧路郡釧路町尻羽岬を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

厚岸湾は、太平洋に湾口を開いている湾で、東側は厚岸町末広（マビロ）崎から西側釧路町尻羽岬を湾口部とし、約 11 km 北方に湾入した湾で、湾奥に厚岸港があり、北東隅に厚岸湖が開口しています。沿岸には千島海流（親潮）が流れ、気候は冬季湿潤寒冷型で、春季・夏季には北東風や南東風によって海霧が来襲するため、霧日数が大変多く、気温は親潮の影響を受けているため、北海道でも一番低くなります。

湾に流入する河川は、尾幌川と小河川のみです。湾岸には、尾幌や門静などの小さな街があるのみで、湾内の水質環境にあまり影響を及ぼしていないと思われます。

自然

湾内には、太平洋に浮かぶ大黒島、パラサン岬～アイカップ崎、アイニカップ崎等の自然景観資源を有し、また、厚岸湾を望む愛冠岬は、白樺の原始林に囲まれた断崖絶壁です。

湾内に藻場は発達しませんが、湾口東部の大黒島を中心に、コンブ類の海中林が広がっています。

湾口の大黒島は、カモメ等の海鳥繁殖地になっており、オオセグロカモメは厚岸町のシンボルとなっています。

その数が 30 万株といわれるヒオウギアヤメの大群生地のあやめヶ原は、湾口部の東の太平洋に面したチンベの鼻一帯にあります。花の時期の 6 月下旬～7 月中旬にかけては、一面が紫色に彩られます。ちょうどこの時期は霧に覆われることも多く、霧が折りなす幻想的な光景に出会えます。



オオセグロカモメ

文化歴史

厚岸の由来は、釧路発達史によると太田口にあった小沼（アッケシュト）から発したと言う説が有力ですが、一方ではアイヌ語のアッケケシ（牡蠣の多い所）からアッケシに転化したという説もあります。厚岸湾を深く抱いた尻羽岬を一望する愛冠岬は、アイヌ語で「矢が達しない所」の意味があります。昔、アイヌ同士の戦いで、一方が愛冠岬に逃げ、矢が届かなかったため、戦いが終わったという伝説があります。

産業

厚岸町では、厚岸生まれで厚岸育ちのカキづくりを目指すためにカキ種苗センターを 1995 年に開所し、人工種苗生産が始まりました。センターでは、国内初のシングルシード方式による「新しい厚岸カキ」作りに取り組んでいます。

厚岸漁協では、1997 年から殻付きカキの鮮度を保つために海水殺菌装置を道内の漁協で初めて導入しました。また、殺菌装置で無菌になった海水をカキの入った水槽で循環させることでカキをさらに新鮮にしています。